

研修報告

『支援相談員基礎研修②③』

- ◇研修日：支援相談員基礎研修② 平成31年1月19日（土）13：30～16：30
支援相談員基礎研修③ 平成31年2月16日（土）13：30～16：30
- ◇テーマ：②『支援相談員の面接技術』、③『支援相談員の援助技術の実際』
- ◇会場：ウインクあいち
- ◇参加人数：②35名、③33名



◇アンケート コメント紹介◇

②『支援相談員の面接技術』

- 面接技術について大学の時も学んでいたが、業務を行ったうえで学び直すと色々と気づかされることが多くあり、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 自分の面接を振り返ることのできる講義と演習だったので実践に生かしていきたい。
- 自分の今までの面談について振り返り、反省等ができました。「誠実に真摯に対応」することの大切さを改めて痛感できました。
- 普段ご家族さんと面談する際にどう伝えたらいいかわからなくて不安になってしまいましたが、今日の研修で自信を持てた気がします。

③『支援相談員の援助技術の実際』

- 事例検討とても難しかったです。実際の現場でも自分一人で考えるとよくわからない、不安なことが多く、今回のような事例の検討をして、業務につなげていけたらよいと思いました。研修で知識を深める事、実際の現場での経験どちらも大切にしていきたいと思いました。
- クリティカルパスのおみやげありがたいです。活用していけるようにしたいです。支援相談員経験数カ月の自分にとっては、ありがたい研修3回でした。
- 他の人から意見を聞くことで、自分では気づかない視点に気づけることを体験しました。病院MSWとしての参加でしたが、普段相談している老健の相談員さんとも顔の見える交流が出来て良かったです。
- 事例検討からあらためて情報収集の大切さ、与えられた情報からアセスメントをする重要性を感じました。また、クリティカルパスについて、利用者側・施設側の共通認識をするため

支援相談員基礎研修全3回を終えて

委員長 石川将弘

サブテーマを「援助の視点・技術・実際を学ぶ」とした全3回の連続講座形式で「支援相談員基礎研修」を実施しました。今年度は全3回で募集定員を上回る参加があり、受入れ人数を増やして対応しました。研修後のアンケートではどのテーマでも満足度が高く、研修の企画意図が伝わると共に、参加者のニーズに沿った研修を実施することができたと思います。

平成30年4月の介護保険制度改正において、介護老人保健施設の在宅復帰支援機能に対する評価の1つに支援相談員の配置人数が盛り込まれました。これは広く地域を支えることが期待される老健機能の中で専門職であるソーシャルワーカー（支援相談員）への期待が込められていると考えます。その期待を実践できる支援相談員となるべく、今後も本研修が一助となれば幸いです。